高速鉄道セミナー「世界の高速鉄道の今と将来」
２０１８年１１月６日
宿利会長　冒頭挨拶

本日のセミナーに大変多くの皆様にご参加いただき心から御礼申し上げる．また，お忙しい中，講演者及びパネリストとして海外からご出席いただいた 3 名の方にも心から感謝したい．運輸総合研究所（JTTRI）は 10 月をもって設立 50 周年を迎えた．これも国土交通省，日本財団，賛助会員の皆様方や本日ご参加の皆様方のご支援，ご協力の賜物だと感謝している．

当研究所主催の高速鉄道セミナーとしては，2016 年 11 月に「EU と韓国における高速鉄道駅周辺の都市開発」をテーマとして，ドイツからカールスルーエ工科大学教授のロッテンガッター氏，そして韓国から韓国交通研究院の現在の所長である王氏にお越しいただき，ご講演をいただくとともに，そのお二人の招請にご尽力いただいた森地茂先生にお二人と共にパネルディスカッションに加わっていただき，山内弘隆先生にモデレーターをお願いしたセミナーから 2 年ぶりの開催となる．当研究所としては，高速鉄道をテーマとして定期的にこのような機会を設けたいと思っており，去る 10 月 3 日にも米国ワシントン DC で高速鉄道セミナーを開催した．米国での開催は 8 年ぶりのことで，私が国土交通省に勤務していた時に，当時の運輸政策研究機構の協力を得て 2010 年 1 月に米国ワシントン DC で開催し，その後シカゴやロサンゼルスでも連続的に開催したが，それから 8 年も空いていたのかとの思いで先月開催したところ，杉山駐米大使による来賓挨拶をはじめ，米国の連邦運輸省・鉄道庁，公共交通輸送協会（APTA）の会長など百数十名の方の参加を得ることができたことから，ある程度定期的に機会を作り情報共有や相互啓発を図るべきだと実感した次第である．

本日のテーマは「世界の高速鉄道の今と将来」とした．イギリスは鉄道の発祥国であるが，現在まだ高速鉄道が整備されるに至っていない．欧州は，日本の東海道新幹線開業から 13 年後の 1977 年にイタリアが高速鉄道を導入して以来，かなり広範囲に高速鉄道ネットワークを整備しているが，このような欧州とイギリスの状況をロドリック・スミス教授にお話しいただく．インドでは，先日来日されたモディ首相と安倍総理との首脳会談でも重要テーマの 1 つに取り上げられた，新幹線技術を用いたムンバイ～アーメダバード間 500km の高速鉄道プロジェクトが着々と進行中である．そのインドの取組みについてインド高速鉄道公社のディグジット氏から最新の状況をお話しいただく．台湾は，11 年前の 2007 年に日本の新幹線技術が初めて海外において導入された事例だが，大変素晴らしい成果を出しており，輸送人員も大変大きな数に上っている．本日は，台湾高速鉄道副社長の陳強氏にお越しいただいているので，最新の状況や将来の展望についてお話しいただく．JR 東日本常務執行役員の最明氏には，新幹線を使ってどのような展開を目指すのかについてお話しいただき，JR 東海の内田執行役員・中央新幹線推進本部副本部長には，リニア中央新幹線を中心にお話しいただくとともに，JR 東海が米国で関わっているプロジェクトについても触れていただく予定である．

今回海外から 3 名の皆様に参加していただいたのは，私が 2014 年の設立以来理事長を務めている国際高速鉄道協会（IHRA）の 3 回目の国際フォーラムが明日から福岡で開催されることになっており，3 名の方々はそのフォーラムにご出席いただく予定であったことから，その前に東京に立ち寄っていただきこのような機会を設けたものである．IHRA は，日本の新幹線システムや技術，あるいは 50 年を超える日本の新幹線の蓄積を正確に海外の皆様にお伝えするというニュートラルで国際的な活動に努めている．一部の方に新幹線の売り込みのための組織という誤解があるようにも聞いているが，そのよ

うなものではなくて，諸外国に対して客観的かつ正確に新幹線のことを知ってもらう努力が必要だということで活動している．

本日は，日本が世界の交通・鉄道のゲーム・チェンジャーとして開発・発展させてきた新幹線，高速鉄道が今世界の中でどういう状況にあるのか，また，世界の高速鉄道がどこに向かって進んでいこうとしているのかということについて，イギリス・欧州，インド，台湾，そして日本の多様な高速鉄道の例を取り上げながら情報を共有し，皆様のこれからの活動にお役に立てていただければ何よりである．

（以上）